

## 第 11 回 東海村（仮称）村松地区周辺地域活性化計画策定検討委員会

開催日時	平成 30 年 3 月 22 日（木） 10：00～11：50	場 所	東海村役場 行政棟 5 階 原子力視察研修室
出席者	委員／◎小原委員，○井坂委員，久賀委員，坪委員，安尾委員，原委員，川崎（敏）委員，宇野澤委員，藤田委員，鈴木（さ）委員，川崎（道）委員 事務局／村長公室 企画経営課 佐藤課長，高橋課長補佐，秋山係長，照沼主事，富永主事 建設農政部 都市整備課 庄司課長，橋本課長補佐，横山係長，大内技師 欠 席／川亦委員，荒木田委員，鈴木（千）委員  (◎：委員長，○：副委員長)		

### ○当日の活動・協議内容

#### 1 開会（企画経営課佐藤課長）

#### 2 小原委員長あいさつ

本日はこれまでの委員会と作業が異なり，これまでの内容の中間報告をご検討いただきます。中間報告なので，外向けよりも，内向けになるかと思いますが，事務局の方では資料をホームページに掲載していただいているので，外の目にも触れることとなります。委員会も 11 回も開催していますので，私としても「できることから着手した方がいい，あるいは，キャッチコピーでも，独自のゆるキャラでもいいので，村松を目立たせることからスタートし，それを際立たせるような取組みを具体化したい」と，うずうずしているところです。ただ，これまでの大枠を一度まとめる必要がありますので，具体的な内容ではありませんが，全体としての基本的な姿勢や大きな枠組みについて，これまでの委員会を踏まえて事務局と私で作成しました。できる限り，みなさんのご意見を反映したつもりです。回を重ねるごとにアイデアや見方が生まれ，あるいは，4 地区を議論しながら少しずつ修正していきますので，他の大枠が見えた中で「こうした方がいいのではないか」というご意見をいただければと思います。本日もよろしく願いいたします。

#### 3 議事

##### (1) 東海村（仮称）村松地区周辺地域活性化計画中間報告（案）について

###### ※秋山係長より中間報告（案）について説明

- ・本報告（案）は，平成 30 年 2 月までに全てのエリアの議論を終えたことから，村松地区周辺地域活性化へ向けた基本的な考え方を検討経過の中間報告として整理したもの。
- ・今後，具体的な取組みを展開するにあたって，どのような方向性で取り組むか柱が必要になる。全エリアに共通する基本的な姿勢を示した上で，エリア別の方向性をいくつか柱立てした。これらは計画の骨格になってくるかと思う。本日は，これまでの委員会を踏まえ，こういった方向性となっているということによろしいかをご確認いただきたい。  
以下，資料に沿って説明（省略）

※小原委員長の進行により，「計画の構成→各論→全体議論」の順で議論を進めた

###### 計画全体の構成について

- 1 頁に委員会の様子を撮影した写真があるが，プロセスよりも，結果が大事だ。中間報告としても具体策について提示できるイメージやイラストがあるといい。（坪委員）

- ➔ 今回の中間報告は、策定検討経過をまとめたものだ。第〇回という文字だけより、委員会の姿を映した方がいいかと思ひ、入れたところだ。(秋山係長)
- 4つのエリアと言っても、現行案だと、外部の人が見たときに分からない。エリアを区切るならば、計画対象エリアの地図に落とす必要があるだろう。ホームページへ出すときは、地図があった方がいい。(川崎敏委員)
- ➔ エリアの地図については、どこがどのエリアか分かるように示したい。もちろん、最終的に計画をまとめる際は、写真や絵を入れることを考えている。(秋山係長)

#### 各論（2頁）「2 計画策定の目的について」～「3 「村松地区周辺地域の捉え方について」

- エリアのネーミングについて、他のエリアは代表的な地域資源を冠しているが、幼保跡地エリアのみ便宜的な名称だ。最終的には名称を検討する必要がある。(小原委員長)
- ➔ 幼保跡地の利用策については、本委員会より前に地域へ落とされたものだ。他の3エリアと比較すると違和感を感じる。無理に計画対象エリアに位置づけなくてもいいのではないだろうか。三が日を除けば、あの場所に駐車して参拝や阿漕ヶ浦公園を利用する人もいないだろう。(久賀委員)
- ➔ 新しく活性化の取組みがされるせつかくの機会なので、素敵なネーミングをし、4つのエリアとしたいところだ。事務局としてはいかがか。(小原委員長)
- ➔ 仰るとおり、この名称で計画が出来上がるのは違和感がある。暫定的に幼保跡地が生まれ、地域の方と検討した経過があった。本委員会では新川流域を活かし、川遊び等の魅力につながるご提案をいただいている。そのため、魅力あるネーミングをし、このエリアは計画に残したい。(佐藤課長)
- ➔ 幼保跡地(新川エリア)等、括弧書きで示してもいいが、最終的には検討が必要だ。(小原委員長)
- ➔ 変えた方がいい。幼保跡地を再開発をする目的があるようで、違和感がある。例えば、「村松地区新川エリア」であれば、感覚的に合う。(川崎敏委員)
- ➔ 新川流域と言うと広範囲に渡るので、「宿区新川流域エリア」としてはどうか。(川崎道委員)
- ➔ ネーミングは今後検討すればいい。あのエリアへ桜を植えるという意見もあったかと思う。他にも、川沿いの遊歩道等、新川の活用策も出るかもしれない。(久賀委員)
- ➔ 外から来た人にPRするという点では、細浦青畝エリアにも形容詞を入れた方が分かりやすいかもしれない。そちらについては、地域をどう盛り上げていくかがまとまり、ターゲットが明確になった後でもいいだろう。また、「大神宮・虚空蔵堂エリア」とあるが、こちらについて、順番は決まっているのだろうか。
- ➔ 大空マルシェでは、(大神宮の)「大」と(虚空蔵堂の)「空」ともある。(川崎敏委員)
- ➔ 承知した。全体として、「自然」「科学」「歴史」の順番は決まっているのか。時間軸で考えると、「自然」「歴史」「科学」の方がしっくりくる気がする。並びに意味はあったのか。(小原委員長)
- ➔ コンセプトを決める際に、出た順に並べたものなので、理由があるわけではない。(照沼主事)
- ➔ 最終報告で調整すればいいのかもしれないが、全体として順番が統一されていなかったことが気になった。(小原委員長)
- 3頁に有形資源が記載されているが、資源を総動員する意味で、無形資源を入れてはどうか。例えば、科学の後ろに括弧書きで具体的なものを記載すれば、分かりやすいのではないだろうか。(坪委員)

- ➔ 「自然」「科学」「歴史」の資源をを括弧で示すということか。たしかに、「自然」「科学」「歴史」は何に基づくか記載があると、次章につながりやすいかもしれない。(小原委員長)
- ➔ エリアは4つあるが、この中に科学(の資源)が出てこない。(川崎敏委員)
- ➔ “大神宮・虚空蔵堂エリア”にJ-PARCを追加したい。(秋山係長)
- ➔ 無形資源に「科学」を入れて、モノとつながりがあれば示せる。(坪委員)
- ➔ 本委員会内でも、最新科学を活かして自然と歴史を見せるといった傾向がある。(小原委員長)
- ➔ 「科学」とは何だろうか。村外の人が見たときに説明しやすいようにした方がいい。(川崎敏委員)
- (3頁記載の有形地域資源の)「阿漕ヶ浦クラブ跡地」も「阿漕ヶ浦周辺用地」とした方が適しているだろう。(藤田委員)
- ➔ そうすると、対外的には「東海駅五反田線買収済み用地」も強烈過ぎる。跡地を最大限利用した村松地区活性化になってしまう。書きぶりを変えた方がいいだろう。(小原委員長)
- ➔ 「東海駅五反田線買収済み用地」は細浦に含まれる。具体的な名称については後から決めてもいいだろう。(井坂副委員長)

#### 各論(3～5頁)「4 目標とする村松地区周辺地域の将来像(案)」「5 村松地区周辺地域の活性化に向けた基本的な姿勢(案)」

- 5頁「(6) できることから始めていく」とあるが、できないことをどうするかが肝心だ。(坪委員)
- ➔ 私は、末文が「できることから前向きに取り組むこととする。」というところが気にかかる。「前向きに」を「戦略的に」としてはいかがか。(小原委員長)
- ➔ 別途、「課題解決のために」といった項目を追加し、そこに具体的・横断的な手法を入れてはいかがか。課題以外の言葉に置き換えてもいい。(井坂副委員長)
- ➔ 「5 村松地区周辺地域の活性化に向けた基本的な姿勢(案)」の書き方について、末文が「…取り組むこととする」となっているが、中間報告(案)が委員会からの報告だとすれば、「…取り組むことが必要である」とした方が適しているのではないだろうか。(藤田委員)
- ➔ 現行案だと、委員会で取り組むとも読み取れてしまうので、書き方を調整する必要がある。(小原委員長)
- ➔ 確認だが、本報告(案)はこれまでの経過のまとめであり、今後の取組みは、これから(決めていくということ)でよろしいか。(藤田委員)
- ➔ これからだ。「5 村松地区周辺地域の活性化に向けた基本的な姿勢(案)」に「課題解決へ向けて」を入れた7項目とするといったご提案が出たが、事務局としてはいかがか。(小原委員長)
- ➔ 事務局としても、ハードルが高い取組みについてあきらめるとは考えていない。それに向けてできることから始めるといった意図がある。誤解を招くようであれば、修正するが、そういった意図はご理解いただきたい。(秋山係長)
- ➔ 事務局の意図もよく分かる。また、あまりに細かく書くと、前置きの大枠にならなくなる。(6)の文言を修正するということではいかがか。(小原委員長)
- ➔ (6)の前段に課題解決の旨を入れておけば、つながる。(坪委員)
- ➔ ハードルが高いことに対しても、あきらめずに、できることをやっていくことがより分かるように(6)が修正されればよろしいか。(秋山係長)
- ➔ 全ての問題につながるということかと思うが、誰が関わるのかということだ。今回は(行政・地域・

民間企業等) 総動員で進めるものだろう。そのとき、どのように協力するか。答だけ示しても分からないので、エリアごとの課題にどう関わり、関係者がどう解くか整理し、まとめた方がいい。結論は、みんなが得をすることことだ。もうかる・もうからないだけではぶつかるので、貸し借りができるといい。これはすごく難しいことだが、あきらめないためにはどうするか、文章としてどう書くかは難しいところだ。(坏委員)

- ➔ 私はそれが「戦略的に」だと考えていた。(小原委員長)
- ➔ 我々がやるべきなのは、活性化へ向けた姿勢よりも、計画策定につながる話だ。そうすると、こういった「基本的な姿勢」は、こんな考え方で計画を策定するといった、「計画策定に対する基本的な姿勢」だ。「計画策定に当たっては、地域資源を最大限に生かす」といったイメージだろう。末文についても、「計画するためには、地域資源を最大限生かせるような計画にする」というだけの話だと考えると、(6)の「できることから始めていく」も、そういう区分けを明確にして計画に反映するということとすれば、課題、時間軸や関わる人は当然出てくることだ。それを明確にするのかどうか「基本的な姿勢」であり、それだけ明確になっていけば、それに基づき施策を考え、具体化し、計画に落とすだけの話だ。「活性化へ向けた」が漠然としていると、よく分からないなと個人的には感じていた。「計画を策定します。その上でこう考えます」と捉えれば、そんなに難しくはないのではないだろうか。(安尾委員)
- ➔ 活性化なのか、将来像を確実に実現するためなのか…。(小原委員長)
- ➔ そうだ。2頁「2 計画策定の目的について」のところもだが、最後の○に記載のある、「…推進していくため」と書くと、『本当に推進していくための計画になっているのか』と思ってしまいが、おそらく違っていて、前段の、ポテンシャルを開花させるための計画を策定するとも読み取れる。その一つの要素に交流人口の拡大等があり、ポテンシャルを膨らませ、3頁に出てくる「つながる」ための計画だと思える。そうすると、4頁以降も「計画を策定するための基本的な姿勢」だと捉えれば、誰がやる・何をやるではなくて、単純に事実として当てていけば整理しやすいだろう。(安尾委員)
- ➔ 「目標へ向けて」などが加われば、いいのではないだろうか。(鈴木さ委員)
- ➔ 「前向きに取り組む」という言い方が引かかる。やらないときの常套句とも読み取れる。(川崎道委員)
- ➔ 坏委員が仰るように、各団体との連携は必要だ。本計画を作り、どう推進するかにも関わる。最終的な計画には、推進体制についても記載する。そこに役割分担や連携について、当然入れる必要があると考えている。(秋山係長)
- ➔ 時間軸や役割分担、課題解決の手法等を入れるのであればいいだろう。(井坂副委員長)
- ➔ 「5 村松地区周辺地域の活性化に向けた基本的な姿勢(案)」の主体について、最終的な計画は行政計画なので、行政としてこういった視点で「…取り組むこととする」となるかと思う。ただ、委員会としてまとめるにあたっては、「…取り組む必要がある」等、委員会から行政への提言のような形となるように修正を加えたい。(秋山係長)
- ➔ 了解した。(6)については事務局で再検討をお願いします。(小原委員長)
- ➔ 本日お預かりした御意見については次回委員会で考えを示したい。また、次回、何らかの形で計画書を示す。「5 村松地区周辺地域の活性化に向けた基本的な姿勢(案)」は、計画の最終版にも入ってくるかと思う。その中で修正案をお示しすることもできる。(秋山係長)

#### 各論(6~10頁)「6 施策の体系(案)」「7 国体の開催を活用した活性化について」

- 8頁「阿漕ヶ浦公園エリア」に「道の駅」を入れてもいい。「阿漕ヶ浦のロケーションを活用し

て道の駅を」という意見もあったかと思う。他エリアには（主な意見に）「道の駅」の記載がある。（井坂副委員長）

- ➔ では「阿漕ヶ浦公園エリア」に「道の駅」入れても問題ないだろう。（小原委員長）
- 8頁に「天神山の眺望を活用」とあるが、天神山の山桜が見事なので、入れてもらえるとPRにもなる。地域の人にとっては当たり前の景観なので見過ごしてしまうが、見事だ。細浦青畝のとうかい十二景の碑がある駐車場辺りから見る山桜は大変美しい。（川崎道委員）
- ➔ 十三詣りの時期は丁度桜の時期だ。寺社に桜があつて、写真を撮ることができると素敵だ。また、「新川の川沿いに桜の植樹」といった意見もあったかと思う。山桜と合わせて桜の植樹を行う計画があつてもいい。（鈴木さ委員）
- ➔ 大神宮には、桜のライトアップしているところもある。（久賀委員）
- ➔ そういったスポットを増やし、桜のイメージを膨らませてもいいのではないだろうか。（鈴木さ委員）
- ➔ 面的に桜を活用できる可能性がある。最近のまちづくりにおいて、音や色はポイントだ。参道にお店がなくても、特定の時期にピンクの提灯をぶら下げるとまちに色がつく。まち全体を色で表現することに取り組む団体も結構ある。また、海浜公園からの（花を見る）流れもできるだろう。（小原委員長）
- ➔ 難しいかもしれない。十三詣りの時期は3月末～4月頭だ。ソメイヨシノの時期とは合うかもしれないが、大島桜は間に合わない。ただ、海沿いなので、大島桜しか育たない。（原委員）
- ➔ 晴嵐の碑のところは枯れてしまったのか。（鈴木さ委員）
- ➔ 昔と風の流れが違うため、今は育たないのもある。虚空蔵堂でも実験的に植えているが、中々育たない。（原委員）
- ➔ 面的にどう育てるかは次年度以降の課題とし、すでにある山桜等を入れていただき、それを空間的つなげながら見せる工夫ができるといい。（小原委員長）
- 「大神宮・虚空蔵堂エリア」について、五十音順で表記することも一案ではないか。（原委員）
- ➔ 表記について、6頁①は（虚空蔵堂に）「村松山」がつく。（小原委員長）
- ➔ 山号が村松山虚空蔵堂だ。だから、村松山一体を表すのは虚空蔵堂がメインだ。そこから村松村ができた。（川崎道委員）
- ➔ 外向けには、「村松山」を入れた方がいいのではないか。（川崎敏委員）
- ➔ 「村松山」は山号であつて、宗教法人としては「虚空蔵堂」だ。他の（日本）三体虚空蔵堂では山号は呼ばない。村松地区の活性化で、虚空蔵堂のみ村松山をつけてしまうと、虚空蔵堂が中心のように見えるのであまりよろしくないのではないか。（原委員）
- ➔ 仮置き3頁の将来像に「大空の郷」という文言が入っている。こちらの取扱いが確定していないので、同様に、エリアの取扱いも確定できないだろう。（照沼主事）
- ➔ そうではなく、A「・」Bは対等を表したと説明する必要がある。（川崎道委員）
- ➔ 「村松晴嵐エリア」とするのも一案だろう。（井坂副委員長）
- ➔ 村松晴嵐は入口も分からない状態だ。エリア名とするのには疑問がある。（小原委員長）
- ➔ 最終的に名前を変える必要があるかもしれないが、こちらについてはペンディングとさせていただきたい。（小原委員長）
- 6頁、活性化の方針について、項目数について、4・3・2・3となっているが、このバランスはいかがか。「〇〇を活用した活性化」と「整備による活性化」といった表現のバランスも異なるところがある。（小原委員長）
- ➔ 「細浦青畝エリア」には環境保全と自然環境で方針①と②で内容が同じに読み取れる。ただ、

主な意見にはウォーキングや歴史等、自然環境的なことも書いてある。(方針に) 自然環境・歴史・スポーツや郷土愛があってもいい。それをつなげることが活性化につながる。(坪委員)

- ➔ 私は、「方針①自然、方針②歴史」と続き、それらを発信するための「VR等の科学技術の投入や技術を活かした…」といった表現を考えた。たしかに、細浦青畝はもう一個ぐらいあってもいいかと思うが、中間報告だから難しいかもしれない。(小原委員長)
- ➔ 「〇〇を活用した活性化」の〇〇の部分は、地域資源が入り込んでいるが、それを活用した結果は無限に考えられる。例えば、ウォーキングも、歴史資源を周ることでのウォーキングだろう。活用後のイメージまで含めると、他のエリアへも広がるのが気にかかる。(秋山係長)
- ➔ 書きぶりが難しい。こちらについては、具体的な取組みについてより詰めた後、修正をするか判断していきたい。(小原委員長)

#### 全体について

- 中間報告後のスケジュールを入れてはいかがか。今後の展開やその材料を示した方が、より、興味を持ってもらえる。(安尾委員)
- ➔ 本案は、策定検討経過の中間報告だ。その辺りは、最後の辺りに触れられるように修正したい。(秋山係長)

#### (2) その他(事務局より)

- ・本日の中間報告(案)に対する意見・提案書は4月6日(金)までに提出
- ・次回委員会については、5月中旬～下旬を予定。日程調整表を4月中旬に郵送する。

#### 4 閉会(佐藤企画経営課長)

- 本日いただいた意見については、事務局と委員長で調整させていただきたい。
- ➔ 異議なし。(一同)

(以上)